

広報

しょうぼう さつま

119

vol.5

平成19年6月発行

編集・発行

さつま町消防本部

薩摩郡さつま町時吉366

Tel 0996-52-0119

Fax 0996-53-0119

Web <http://www.satsuma-net.jp/>

mail shobo@satsuma-net.jp

防火を誓う園児たち

つるた同朋保育園幼年消防クラブ結成式

※最終面に関連記事



主な内容

- 1・2ページ…特集「風水害に備えて」
- 3ページ……付いてまちか?住宅用火災警報器
- 4ページ……人命救助表彰
役場分団閉団
- 5ページ……優良婦人消防隊表彰
幼年消防クラブ発足
消防ほつと写真館

平成19年度全国統一防火標語

火は見てる
あなたが離れる
その時を

風水害の危険！その時どうする？

町の対応

- 町職員や消防署員・消防団員による河川や危険箇所の警戒巡視を行います。
- 町防災行政無線・広報車・消防車などで災害情報や避難情報をお知らせします。
- 避難勧告
災害の発生する可能性が高まったときに発令して、みなさんに避難を勧めます。
- 避難指示
避難勧告より強いもので、災害発生の危険性が非常に高いときに発令しますので直ちに避難してください。
- 避難誘導
避難のときは町職員や消防署員、消防団員の指示に従って行動してください。

大雨・台風 接近！

情報収集

避難準備

避難

住民の行動

正確な情報をキャッチ

大雨・洪水・台風などの状況はテレビやラジオ、インターネットなどで確認しましょう。
河川の水位やがけ崩れに注意し、危険箇所へは近づかないようにしましょう。



避難の呼びかけに注意を

広報車や防災無線の呼びかけには十分注意するとともに、非常持ち出し品の準備や避難所・避難経路の再確認を行い、いつでも避難できるよう準備を始めましょう。



「避難は早めに」が鉄則！

避難は「時期を逸しないこと」が大切です。指定された避難場所に、すみやかに避難を始めましょう。避難勧告・指示が発令されていなくても、自分の身に危険を感じたら自主的に避難してください。特に高齢者、体の不自由な方、幼児や病人がいる家庭には、隣近所で声を掛け合い、助け合って避難してください。

特集

風水害に備えて



平成18年7月県北部豪雨災害 国道267号宮都橋付近

「風水害」を知ろう！

風水害で、特に気をつけなければならぬのが集中豪雨です。短時間に狭い地域に集中して降るため、その予測は極めて困難といわれています。また集中豪雨により河川の氾濫や土砂崩れ、がけ崩れなどが予想されるので、気象情報には十分注意して、早めに避難する必要があります。下表の雨の降り方や風の強さを知っていることで危険を回避することができます。

1時間の雨量と降り方(気象庁による)

1時間の雨量	雨の降り方
10~20mm	ザーザーと降り、雨音で話し声がよく聞こえない。
20~30mm	どしゃ降り。側溝や下水、小さな川があふれる。
30~50mm	バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。
50~80mm	滝のように降り、土石流が起こりやすい。車の運転は危険。
80mm以上	雨による大規模な災害発生の危険があり、嚴重な警戒が必要。

風の強さと被害予想(気象庁による)

平均風速 (m/秒)	予報用語	想定される被害
10以上~15未満	やや強い風	看板やトタン板が飛び始める。
15以上~20未満	強い風	風に向かって歩けない。
20以上~25未満	非常に強い風	しっかり体を確保しないと転倒する。
25以上~30未満	(暴風)	立ってられない。車の運転は危険。
30以上	猛烈な風	屋根が飛び、家が倒れることもある。

これからの季節は梅雨前線の活動や台風の上陸・接近などにより、風水害が発生しやすくなります。風水害が起きたときに慌てることなく冷静に対応するため、日ごろからの備えと早め早めの対策が必要です。ここでは風水害が発生したとき、皆さんがとるべき行動についてご紹介します。

参加者の声



神子地区
自主防災組織
中園昭生さん

土のうづくり体験では、土のう袋の正しい口の結び方や積み上げる際のポイントを教わりました。

今回演習に参加してみて、私の地域はお年寄りも多いので、災害が起きそうな時は隣近所で助け合って避難誘導するなど「早め早めの行動」が大切だと感じました。また、役場、消防団、自衛隊などのきびきびした行動が印象に残りました。

5月13日、神子橋下流の河川敷において川内川水防演習が行われました。この演習は、出水期に備えて水防工法の技術を高めて、水防態勢に万全を期すことをめざして実施したもので、本町をはじめ、国、県、自衛隊、薩摩川内市など総勢約600名が参加して行われました。今回の演習は、九州南部に停滞した梅雨前線の影響により、川内川が増水、神子地区で堤防決壊の恐れがあるとの想定で行われました。



土のうを積み上げる消防団員

災害から住民を守れ！

演習では、土のうづくりや各種水防工法の実施、避難誘導、水難救助活動、防災ヘリによる人命救助などが実施されたほか、地元神子地区自主防災組織による土のう作り体験も行われました。

付いていますか？

住宅用火災警報器

現在すべてのご家庭に「住宅用火災警報器」の設置が義務付けられています。新築住宅は建築時に、すでに建築済みの住宅はできるだけ早めに設置するようにしてください。

また消防署では、警報器を設置されたご家庭に「設置済みステッカー」を無料で交付しています。(※5月7日現在238世帯に交付済み)申請書を提出するなどの簡単な手続きで発行できますので、消防署までご連絡下さい。

連絡先 消防署予防係 52-0119まで

※さつま町消防本部のホームページからもご覧になれます。

さつま町 火災警報器



不適正な訪問販売にご注意下さい！



ある日、あなたの家を見知らぬ「消防職員風」の男たちが訪問し、強引に住宅用火災警報器を設置しようとしたら・・・

悪質訪問販売のだましのテクニック

- その1…「消防署の『方』から来ました。」などと消防署員を装う。
- その2…設置しないと罰せられるなどと恐怖心をあおったり、脅す。
- その3…今だけです、などと特別価格を強調する。
- その4…強引に押印を迫るなど考える時間を与えない。

少しでも「おかしいな？」と思ったり、被害にあったときには消防署 52-0119または警察署 53-0110まですぐにご相談下さい。



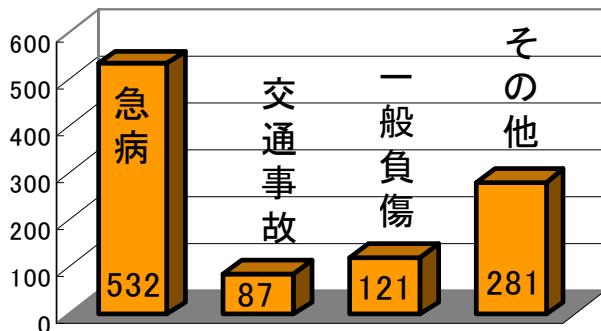
平成18年 救急統計

平成18年中は、1,021件に出動し、997人の方を病院へ搬送しています。

これは、前年に比べ出動134件、搬送人員が137人増加しています。

出動件数で最も多いのは急病で、全体の52.1%を占めています。

また搬送人員は、65歳以上のお年寄りが全体の63%を占めており、そのうちの53%が急病により搬送されています。

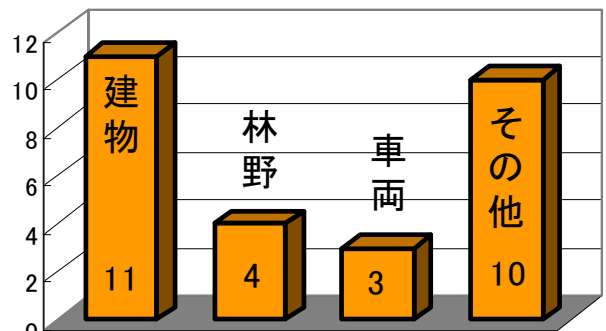


平成18年 火災統計

平成18年は28件の火災が発生し、前年に比べ4件増加しています。

火災種別では建物火災が最も多く、9棟が全焼するなど合わせて14棟の建物に大きな被害がでています。また火災による死者が2名、けが人も3名発生しています。

出火原因では「たき火」からの火災が13件と最も多く、そのほとんどが林野火災や枯草などを焼く火災につながっています。



勇 敢な行動をたたえて

消防本部は、2月21日に発生した火災により、建物に取り残された住人を迅速的確な連携で救出した5人の方に、感謝状を贈りました。

贈られた皆さんは写真左から榊山正二さん、栗野和昭さん、上土橋満さん、宮脇幸蔵さん、森山秀治さん。

老夫婦2人が取り残されていることを聞いた5人は、森山さんと栗野さんが炎上中の建物の中へ入って2人を助け出し、屋外で待機していた上土橋さんら3人が安全な場所へ避難させるなどのすばやい連携で、人的な被害を未然に防ぎました。



役 場分団旗を返還

旧鶴田町役場職員で構成されていた役場分団は、昭和48年7月1日から約34年間にわたり住民の生命と財産を守ってきましたが、3月31日にその使命を終え閉団しました。団員の皆さん長い間たいへんご苦労様でした。

これでさつま町消防団は22分団8部となりました。



榊山団長へ返還される分団旗

シリーズ わがまちの消防団

町内の消防団を毎回紹介していきます。第1回目は永野分団1部、2部、3部です。

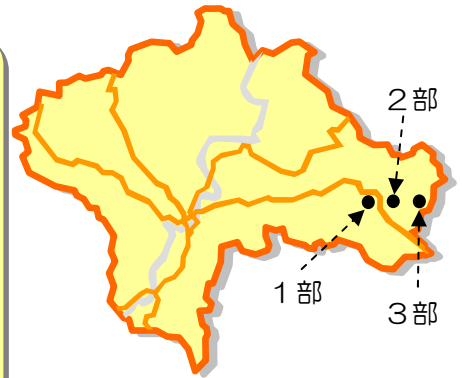
永野分団

分団長 城戸伸二 副分団長 笹田正一



城戸伸二
分団長

私たち永野分団は、現在3部35名で活動しています。火災や災害の出動はもとより、防火広報、梅雨前の防災点検、それから防火水槽などの点検・修理を行っています。近年、永野地区も高齢化が進んできて団員の確保も難しくなってきました。今まで以上に住民と力を合わせて地域を守っていきたいと思います。



※平成19年4月1日現在

1部

部長 川口正成 以下16名
管轄公民会(210世帯499名)
仕明・吉川・新町(上村・寺元・丁町)



2部

部長 三浦次雄 以下9名
管轄公民会(135世帯239名)
金山・新町(山峯・平田)



3部

部長 下築敏文 以下10名
管轄公民会(193世帯459名)
岩元・新地・駒ヶ段・築平・下別府・南川



「優良婦人消防隊」表彰受賞

永野地区婦人防火クラブ（山口三代子隊長ほか8名）が、日本消防協会から「優良婦人消防隊」表彰を受賞されました。

これは長年にわたり、永野地区の高齢者宅防火訪問や火災予防の広報活動などが認められたものです。

これからますますの活躍が期待されます。



「火遊びはしません」と防火のちかいかい

5月12日、つるだ同朋保育園で町内4箇所目となる幼年消防クラブの結成式がありました。

同クラブは、幼年期から火に対する正しい知識を身につけるとともに、地域や家庭の防火意識高揚を図ることを目的に結成されました。

当日は、クラブ旗と隊員22名にワッペンが渡され、「火遊びはしません」と元気に防火を誓いました。



「救える命」を救うために

西一樹救急救命士がこの程病院での実習を終え、4人目の「気管挿管のできる救急救命士」に認定されました。口から気管にチューブを入れて確実に気道を確保する救急救命処置が、傷病者がいる現場で実施できるため、大きな救命効果が期待されています。



消防ほっと写真館



2006.11.12

JA さつま農業祭の観客の前で、元気いっぱい踊りました。
【恵光保育園幼年消防クラブ】



2007.01.06

消防出初式で、一糸乱れぬ規律訓練を披露。
【さつま町消防団西部方面隊】



2007.01.06

「隊長に敬礼！」小雨の中でも一生懸命がんばりました。
【旭保育園幼年消防クラブ】



2007.02.21

職員の説明を聞き漏らすまいと真剣なまなざし。
【求名小3年生社会科見学】



2006.11.22

ナゾの白装束集団ではありません。
【新型インフルエンザ対応訓練】



2006.11.07

「僕はチビっ子消防士」子ども用の防火衣を着て放水。
【つるだ同朋保育園】